

## 招き猫説明資料

Maneki Neko は AI、3D プリンタ・スキャナなど最先端のテクノロジーと工芸のスーパーテクニックを使ったアート作品である。

これが生まれたのは日本の高岡。高岡には徳川幕府の時代に高岡金谷という鋳物師集団がおり 1850 年の後半には全国一の勢力を誇っていた。この基礎をつくったのは[織田信長](#)、[豊臣秀吉](#) 旗下の指揮官として転戦を務め、そして[徳川家康](#) に帰順する加賀藩二代の前田利長と言われている。こういったことを背景に、加賀藩は銃砲の生産拡大を強力に推進した。前田利長公の菩提をとむらうため三代藩主利常によって建立された[国宝高岡山瑞龍寺](#) は江戸初期の禅宗寺院建築として高く評価されている。高岡には[鈴木大拙](#) が訪れた日本有数の禅寺である[国泰寺](#) もある。

アニメの世界から飛び出してきたような Maneki Neko。その由来は、浅草の浅草寺説、世田谷の[豪徳寺](#) 説、京都の伏見稲荷説など様々ある。黒色は魔除け、厄除け、幸運、商売繁盛の意味を持つ。日本には、[招き猫美術館 -金山寺-](#)、招き猫ミュージアム、[尾道イーハトーヴ・招き猫美術館 in 尾道](#) など専門の美術館もある。

Maneki Neko の製作に当たり、最新の 3D スキャナ、3D プリンタを駆使して製作を行った。日本の仏像の造形美、禅の精神性を意識しながら形を整えていった。表面の塗装は「漆」といって、仏像、寺社、サムライの甲冑などの塗装に使われた自然環境に優しい天然塗料である。漆によって日本の自然美・自然界に宿る精神を表現している。

漆はヨーロッパでも高貴な塗料として知られており、オーストリア・ハプスブルク家の女帝マリア・テレジアはウィーンの[シェーンブルン宮殿](#) に「漆の間」を設え、娘のマリアアントワネットも漆の収集家であった。さらに[ガブリエル・シャネル](#) は生涯、漆の愛好家であった。

漆は木から採取され、酵素により重合が進む高分子化合物であり、しかも有機溶媒を含まないサステナブルな塗料である。漆の黒色は精製する段階で鉄分を入れることによって、漆が黒色に変化したものであり、深みと光沢があることが特色である。漆は湿度のあるところで緩慢に固定化される高分子塗料なので、凹凸面が多い意匠の塗装の難易度が高く塗師のスーパーテクニックが要される。青色に光り輝く加飾はアワビの真珠層を薄く切り出したもので馬具や日本刀の劍拵にも使われている。素材は高級樹脂を使用している。

製作グループ

【ディレクター てしごとクラブ 宇田川耀平】

日本の精神性、美意識を伝えるラグジュアリーブランド。東京オリンピックでも蝶ネクタイを提供。国際漆展、ウッドデザイン賞など入選多数。

【プロデューサー 國本耕太郎】

「ふるさとイベント大賞」を受賞した「高岡クラフト市場街」の実行委員長。鈴木忠志が率いる SCOT のある利賀村では artisan933 のメンバーとして TOGA ART CAMPGROUND を運営する。1909 年創業の漆器屋「漆器くにもと」のオーナー。

【意匠デザイン 丸山達平】

仏師であり、漫画『ONE PIECE』の麦わらの一味の銅像のすべての原型制作を一任されている美術造形クリエイター。「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」の像の原型も丸山氏によるもの。デザインしたイカ型 USB メモリーが MoMA MoMA Design Store にセレクトされる。

【漆芸塗り 芝さゆり】

漆工芸「源」の三代目として「うるしば」を立ち上げる。元パティシエの女流漆芸家。

【漆芸加飾 武蔵川剛嗣】

1910 年創業の武蔵川工房の四代目。伝統工芸士。キャノンとレンズフード漆器・螺鈿など新しい取組も行っている。

[てしごとクラブ](#)

[てしごとクラブ米国サイト](#)